

令和6年度 学校経営方針

校長 荒城 英子

- 1 建学の精神を尊重した生徒主体の学校経営を目指す。
- 2 「意欲のある生徒」の育成を通して、生徒一人ひとりに自尊感情をもたせる。
- 3 キャリア教育を根幹とする出口教育に努める。
- 4 柴田学園で取り組んでいる高大連携を継続する。
- 5 生徒の実態（不登校経験・学力・家庭環境・病気や傷害・行動面の特徴など）を把握するとともに教職員間の情報共有に努め、職員全体が同じ方向の指導に努める。
- 6 本校の長期的グランドデザインを「やり直しの効く学校」と考え、単位制導入を目指す。

重点項目

(1) 学習指導について

楽しく学習できる授業を通して、生徒が目的意識をもてるようになる。

校内巡回を行い、生徒の動向並びに教育環境の把握に努め、生徒理解と生徒実態の情報共有にともなう授業研究や教科内での研鑽を図るとともに生徒の実態に合った教育課程や卒業単位数等について協議する。

(2) 生徒指導について

生徒指導規程は、罰するためのものではなく生徒を生かすための指導である。規定の適用には慎重を期すべきである。そのためには、指導過程における計画、報告、連絡、相談、資料の提出等の過程を経て、最終的に校長が判断するものとする。

(3) 進路指導について

高大連携を推進し、系列校への入学を中心にした進学指導を行うとともに生徒の多様な進路志望に適した対応も図って欲しい。また、国公立大学への進学対応にも努めて欲しい。

(4) 学校環境等について

学園の財政環境に応じながら、学習環境の不整備な部分の整備を早急に進めたい。そのためには、事務との連携を図るとともに校内外の巡視をお願いする。